

地域医療シンポジウム なごや医療モデルの将来像

少子高齢化が進む中で、医療への市民ニーズの多様化や、担い手不足など、医療機関を取り巻く状況は厳しさを増しています。

安全・安心な医療を持続的に提供していくために、名古屋市は附属病院群にどのような役割を期待しているか、大学たる名市大は医療人の育成等を通じて市民に何を還元できるのか、地域医療はどのような方向に向かうのか、それぞれの観点から問題を掘り下げ、考えます。

【特別講演】

吉田 学 名古屋市立大学顧問（元厚生労働事務次官）

【事例報告】

松川 則之 名古屋市立大学病院長

窪田 泰江 名古屋市立大学大学院看護学研究科長

平松 修 名古屋市立大学病院企画局長

対象 学内外の医療関係者、医療系学生、
大学関係者、行政機関関係者、
一般の方

日時 10月29日（水）14:30～16:30

会場 さくら講堂（定員500名）
（名古屋市立大学桜山キャンパス）

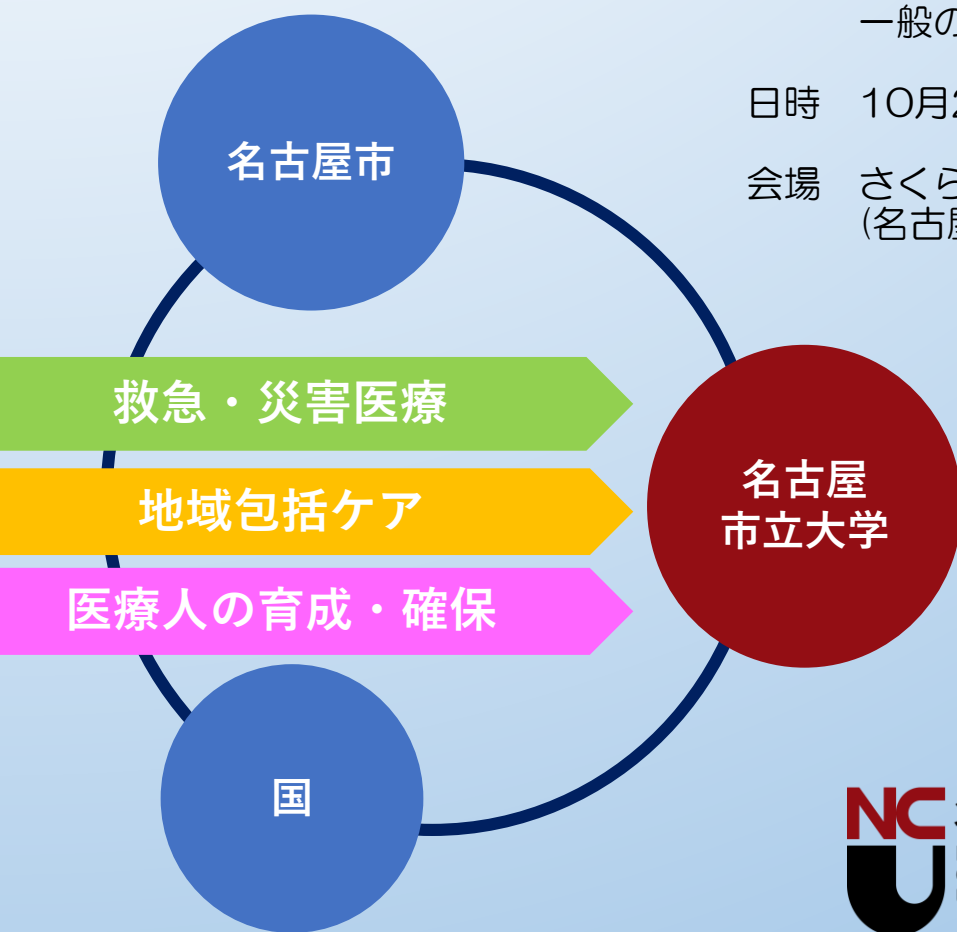
参加申込

名古屋市電子申請
サービスより事前申込
10月20日（月）締切
（席に空きがあれば
当日参加も可能です）

参加無料



申込フォーム



NC 名古屋市立大学
NAGOYA
CITY
UNIVERSITY

2025年は開学75周年

主催：名古屋市立大学 共催：名古屋市

プログラム

13:30 開場・受付

14:30 開会

14:35 主催者挨拶

理事長 郡 健二郎

14:45 事例報告

- ・地域医療を守るための指定都市名古屋の施策の方向性

～なごや医療モデルが目指すもの～

平松 修 名古屋市立大学病院企画局長

- ・なごや医療モデルにおける名古屋市立大学病院群の役割と医療実践の試み

松川 則之 名古屋市立大学病院長

- ・本学における看護師養成の現状と附属病院群との連携

～実践力をもつ看護師の養成を目指した看護教育～

窪田 泰江 名古屋市立大学大学院看護学研究科長

15:15 特別講演

「2040年」の名古屋はどうか・どうする

～「ゾーン・ディフェンス」としての地域包括ケア～

吉田 学 名古屋市立大学顧問(元厚生労働事務次官)



【略歴】

名古屋市出身

厚生労働省子ども家庭局長、医政局長を歴任。

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長を経て、
厚生労働事務次官に就任。

令和7年1月より、名古屋市立大学顧問に就任。

15:55 休憩

16:10 パネルディスカッション

市民が求める安心・安全な医療を持続的に

提供していくにはどうすべきか

名古屋市の職員も加わり、それぞれの視点から

課題や将来のあり方について掘りさげる

ファシリテーター 吉木 彰 名古屋市総務局担当局長(市立大学)

16:30 閉会

国公立大学1位 THEイパ°外ランキング 2025

名市大は、SDG3(すべての人に健康と福祉を)で
国公立大学1位に評価されました



お問合せ先 名古屋市立大学統括企画室
052-853-8749 (平日9～17時)
tokatsu@sec.nagoya-cu.ac.jp